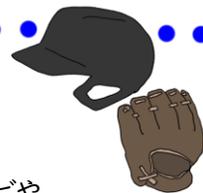




「白河の関」を越えた「優勝旗」



先日まで甲子園で行われていた夏の全国高校野球は、宮城県の仙台育英高校が優勝しました。その際、「深紅の大優勝旗が初めて『白河の関』を越えた」とテレビや新聞で報道されていました。私は「白河の関」という言葉を聞いて、松尾芭蕉の「おくのほそ道」を連想しました。「白河の関を越える」とは、古くから「東北地方に入る」ということを意味してきました。1915年の第一回大会から108年が経ち、今回の仙台育英高校の優勝によって、深紅の優勝旗が初めて、「白河の関」を越えました。長い歴史を感じます。仙台育英高校の須江航監督は、インタビューでこのような受け答えをされていました。

アナウンサー：「初優勝おめでとうございます。」

須江監督：「宮城の皆さん、東北の皆さんおめでとうございます。」

アナウンサー：「ゲームセットの瞬間、少し目元をおさえてらっしゃいました。どんな思いですか。」

須江監督：「100年開かなかった扉が開いたので、なんか多くの人の顔が浮かびました。」

アナウンサー：「宮城の皆さん、東北の皆さんの夢、叶いましたね。」

須江監督：「準決勝を勝った段階で、本当に東北や宮城の皆さんからたくさんのメッセージをいただいて、本当に熱い思いを感じていたので、それに応えられて何よりです。」

100年以上におよぶ東北勢の悲願が叶った瞬間でした。昨日までライバルだった人たちも同じ夢を追いかける仲間になり、そういうたくさんの人たちの思いが一つに繋がり、「**新たな扉**」が開かれたのです。これだけでも感動しますが、さらに胸を打たれる言葉がありました。

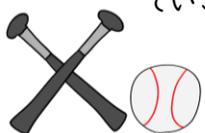
アナウンサー：「今年の3年生は、入学したときから新型コロナウイルスの感染に翻弄されてきました。それを乗り越えてのこの優勝、3年生たちにはどんな言葉をかけたいですか。」

須江監督：「入学どころか、多分おそらく中学校の卒業式もちゃんとできなくて、高校生活というのは、なんていうか、僕たち大人が過ごしてきた高校生活とは全く違うんですね。**青春ってすごく密なので、でもそういうことは全部『だめだ。だめだ。』**と言われて、活動しててもどこかでストップがかかって、**どこかでいつも止まってしまうような苦しい中で、でも本当に、諦めないでやってくれたこと、でもそれをさせてくれたのは僕たちだけじゃなくて、やっぱり全国の高校生のみんなが、本当によくやってくれて、例えば今日の下関国際さんもそうですけど、大阪桐蔭さんとか、そういう**目標になるチームがあったから、どんな時でも諦めないで、暗い中でも走っていったので、本当に、全ての高校生の努力の賜物**です、ただただ最後に僕たちがここに立ったというだけなので、**ぜひ全国の高校生に拍手してもらえたらな**と思います。」**

この言葉を聞いて、すぐに君たちの顔が浮かびました。

「青春は密」。本当にそのとおりだなと思います。学校行事が縮小や中止になることが多かった中学校生活。部活動もそうでした。いろいろな活動が制限される中、新型コロナウイルスの感染予防を行いながら、その中でできることを考え、本当に一生懸命活動していました。そして、中学生最後の県総体、やっと「有観客」での開催が許されました。中学生の皆もコロナ禍の中で努力を重ねてくれた、須江監督の言葉をお借りするなら「全ての中学生の努力の賜物」が、有観客開催に繋がったのだと思います。これまでずっと支えてくれていた保護者の方々に、君たちが一生懸命プレーする姿を見てもらうことができた、保護者の方々も本当に喜んでくれていると思います。そして何より、君たちが一生懸命プレーする姿が嬉しかった。その時の映像が思い浮かび、目頭が熱くなりました。

コロナ禍では「密」を避けることが求められています。（でも「青春は密」なんだ。）物理的な「密」は避けなければならないけれど、中身が濃い（「密」な）思い出になるよう、君たちの「青春」が「濃密」なものになるように、今ある制限の中で、できることを探して実行していこう。二学期は学校行事が盛りだくさんです。縮小や中止といったことがないことを、何よりも願っています。二学期も皆で協力して「青春」していこう！！



学力診断テストについて

部活動を引退してからの夏休みは、夏期講習などで忙しく過ごしていたのでしょうか。その中で、心も身体もリラックスして遊ぶ時間もしっかり確保できましたか。二学期は毎月「学力診断テスト」を実施します。さっそく、9月7日（水）に第二回校内学力診断テストがありますね。学力診断テストの出題範囲は「あすなろ 第6号」に載せています。そちらも確認しておきましょう。

テストは学力を測るものですが、学力は何度測っても、測るばかりでは伸びることはありません。毎回のテストをしっかり振り返り、自分に必要な勉強を見極め、次の一ヶ月に補い、新しい蓄えをつくらなければ、次のテストも測るだけで終わってしまいます。

夏休みの勉強が思うようにはかどらなくて、テストから逃げだしたいと思う人もいるかもしれませんが、でも自分の「新たな扉（進路の扉）」を開ける鍵は自分しか持っていません。誰も代わることはできません。今の自分の状態を現実として受け止め、今日から前に進むことを考えましょう。まだまだ未来は変えられます。目標に向かって、全力を尽くしましょう。

高校の体験入学の申込は大丈夫！？



県立高校の体験入学は、夏休み期間中から始まっています。県立高校だけではなく、私立高校なども含め、この夏休み期間中に体験入学に参加しましたか。実際に目で見て、耳で聞いて、肌で感じたことをメモし、志望校の絞り込みに役立ててください。また、これから体験入学や入試説明会などが、本格化していきます。引き続き、自ら情報をキャッチしに行きましょう。

ご注意ください！！

